

2016 年度（対象年度：2015） 自己点検・評価シート 【大学全体の視点】

基準 7	教育研究等環境
------	---------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
704	【大学全体の視点】 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されていますか。	【大学全体の視点】 ①教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	B	B
		【大学全体の視点】 ②TA等の教育支援体制の整備について充実を図っていますか。【※どのように】	B	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。 点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。
704①学生の多様な主体的学びを支援するため、「学生の多様な学びの空間」をコンセプトにした龍谷大学ラーニングコモンズを開設（深草学舎：4月、瀬田学舎9月）した。龍谷大学ラーニングコモンズは、スチューデントコモンズ・グローバルコモンズ・ナレッジコモンズの3つの機能別コモンズで構成され、「学生の多様な学びの空間」を全体のコンセプトとしながら、機能別コモンズ毎のコンセプトに基づく学修支援を展開した。また、各コモンズの利用促進や有機的な連携を図ることができるよう、学舎毎に各コモンズの取組・利用状況等を共有・調整できる事務連絡会（深草コモンズ事務連絡会、瀬田コモンズ事務連絡会）を設置するとともに、龍谷大学ラーニングコモンズ全体の運営について協議するラーニングコモンズ運営協議会を設置し、各コモンズの改善・充実及びコモンズ全体の機能強化を図った。 努力課題として指摘のあった「教員の教育・研究の環境整備に関する方針」については、第33回及び34回学部長会において審議し、大学基準協会の新たな「大学基準」や2016年4月から検討を開始する「学修支援の方針」の内容を踏まえて策定することが決定した。 704②「教育補助員・TA・チューター制度の運用ガイドライン」を整備し、これに基づき、教育上必要とされる教育補助員・TAを適切に雇用している。
〔改善すべき点の確認〕前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。
（自ら「改善すべき点」と掲げた事項） ・今後、龍谷大学ラーニングコモンズの活用状況について把握を行う。また、各コモンズの教育効果の検証方法やその体制について検討する。 ・教育補助員・TA・チューター制度の運用実態を把握し、見直しの必要性、またその方向性について検討する。 （評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項） ・昨年、留意点となっていた教員の教育・研究の環境整備に関する方針は策定されていないので、方針を定めるとともに明示する必要がある。【努力課題】 ・ラーニングコモンズの活用状況について把握し、教育効果の検証方法や体制について検討頂きたい。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
龍谷大学ラーニングコモンズ運営協議会において各コモンズの改善・充実及びコモンズ全体の機能強化について検討し、学生の多様な学びの空間として、さらなる利便性向上を図った。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。
教員の教育・研究の環境整備に関する方針を策定する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
704	2015 年度深草コモンズの取組・利用状況等一覧
704	2015 年度瀬田コモンズの取組・利用状況等一覧
704	教育補助員・TA・チューター制度の運用ガイドライン

II. 評価結果

総評
努力課題として指摘されていた「教員の教育・研究の環境整備に関する方針」については、第 33 回及び 34 回学部長会において審議し、大学基準協会の新たな「大学基準」や 2016 年 4 月から検討を開始する「学修支援の方針」の内容を踏まえて策定することが決定している。計画通りに策定していただきたい。 TA等の教育支援体制については、「教育補助員・TA・チューター制度の運用ガイドライン」を整備し、これに基づき、教育上必要とされる教育補助員・TA を適切に雇用しているが、近年、教育方法の多様化に伴い、学生の協力を得た教育支援体制も多様化・複雑化している。こういった状況から、全学的な運用状況を集約し、ガイドラインの適切性について検証する時期にきていると考えられる。
伸長すべき点（長所） 《箇条書き》
改善すべき点 《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・努力課題として指摘されていた「教員の教育・研究の環境整備に関する方針」については、第 33 回及び 34 回学部長会において審議し、大学基準協会の新たな「大学基準」や 2016 年 4 月から検討を開始する「学修支援の方針」の内容を踏まえて策定することが決定している。計画通りに策定していただきたい。【努力課題】 ・TA等の教育支援体制については、「教育補助員・TA・チューター制度の運用ガイドライン」を整備し、これに基づき、教育上必要とされる教育補助員・TA を適切に雇用しているが、近年、教育方法の多様化に伴い、学生の協力を得た教育支援体制も多様化・複雑化している。こういった状況から、全学的な運用状況を集約し、ガイドラインの適切性について検証する時期にきていると考えられる。【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

Ⅲ. 大学基準協会からの助言について

助言内容

【認証評価結果 課題】

- 1) 教員の教育・研究の環境整備に関する方針は、策定されていないので、方針を定めるとともに明示することが望まれる。

Ⅳ. 全学的課題事項

2015 年度

■評価項目 No.704

昨年、留意点となっていた教員の教育・研究の環境整備に関する方針は策定されていないので、方針を定めるとともに明示する必要がある。【努力課題】